

みんなで  
キャリア教育を支え、  
進めよう!

# 地域と学校をつなぐ コーディネーター教本

奈良市「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」

Coordinator textbook

Coordinator textbook

【発行】奈良市地域教育力強化推進委員会  
【制作】財団法人 京都高度技術研究所

奈良市地域教育力強化推進委員会



平成23年1月、中央教育審議会は、  
答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」について公表しました。  
まずは、本答申が提示した新たな方向性と、今後目指すべきキャリア教育の在り方について理解しましょう。

# キャリア教育の新たな定義

一人一人の社会的・職業的自立に向け、  
必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、  
キャリア発達を促す教育。

## 『キャリア』 とは何か？

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。(答申第1章 1(1)本文)

また、このように、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を「キャリア発達」という。(答申第1章 1(1)脚注)

## 新たな定義 の必要性

中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続の改善について(答申)」(平成11年)では、キャリア教育を「望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」とし、進路を選択することにより重点が置かれていると解釈された。また、キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書(平成16年)では、キャリア教育を「『キャリア』概念に基づき『児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育』」ととらえ、「端的には」という限定付きながら「勤労観、職業観を育てる教育」としたこともあり、勤労観・職業観の育成のみに焦点が絞られてしまい、現時点においては社会的・職業的自立のために必要な能力の育成がやや軽視されてしまっていることが課題として生じている。(答申第1章 1(1)脚注)

Column-01

### 学校でプログラムを組み、児童生徒に考えさせる

キャリア教育を行うためには、児童生徒が自発的に取り組みたい魅力あるプログラムが必要です。キャリア教育のプログラムは、無限に生み出すことができます。教科学習と絡めたり、地域の行事や産業をテーマにしたり…。コーディネーターは、地域や学校の要望、児童生徒の状況にあわせてプログラムを提案します。全国で行われている事例を学校に紹介したり、アレンジしてプログラムを開発することが大切です。

## 『4領域8能力』から『基礎的・汎用的能力』へ

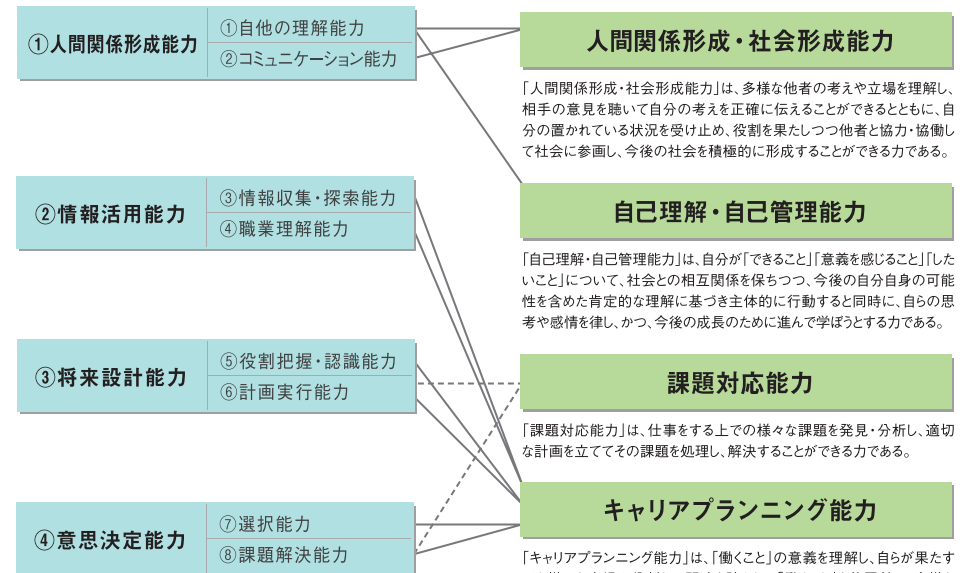
### 『4領域8能力』 の課題

今日「4領域8能力」と広く呼ばれる「キャリア発達にかかわる諸能力(例)」(平成14年・国立教育政策研究所生徒指導研究センター)については、  
(1)高等学校までの想定にとどまっているため、生涯を通じて育成される能力という観点で薄く、社会人として実際に求められる能力との共通言語になっていない。  
(2)提示されている能力は例示にもかかわらず、学校現場では固定的にとらえている場合が多い  
(3)領域や能力の説明について十分な理解がなされないまま、能力等の名称の語感や印象に依拠した実践が散見される。  
等の課題が指摘されてきました。

### 『基礎的・ 汎用的能力』 とは何か？

中央教育審議会では、「4領域8能力」をめぐるこれらの問題を克服するため、就職の際に重視される能力や、その後に提唱された類似性の高い各種の能力論(内閣府「人間力」、経済産業省「社会人基礎力」、厚生労働省「就職基礎能力」など)とともに、改めて分析を加え、「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力」として再構成して提示することとしました。  
その結果得られたのが「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つから成る「基礎的・汎用的能力」です。下記では、それぞれの能力についての説明を答申から引用します。

## 4 領域 8 能力 → 基礎的・汎用的能力



「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。

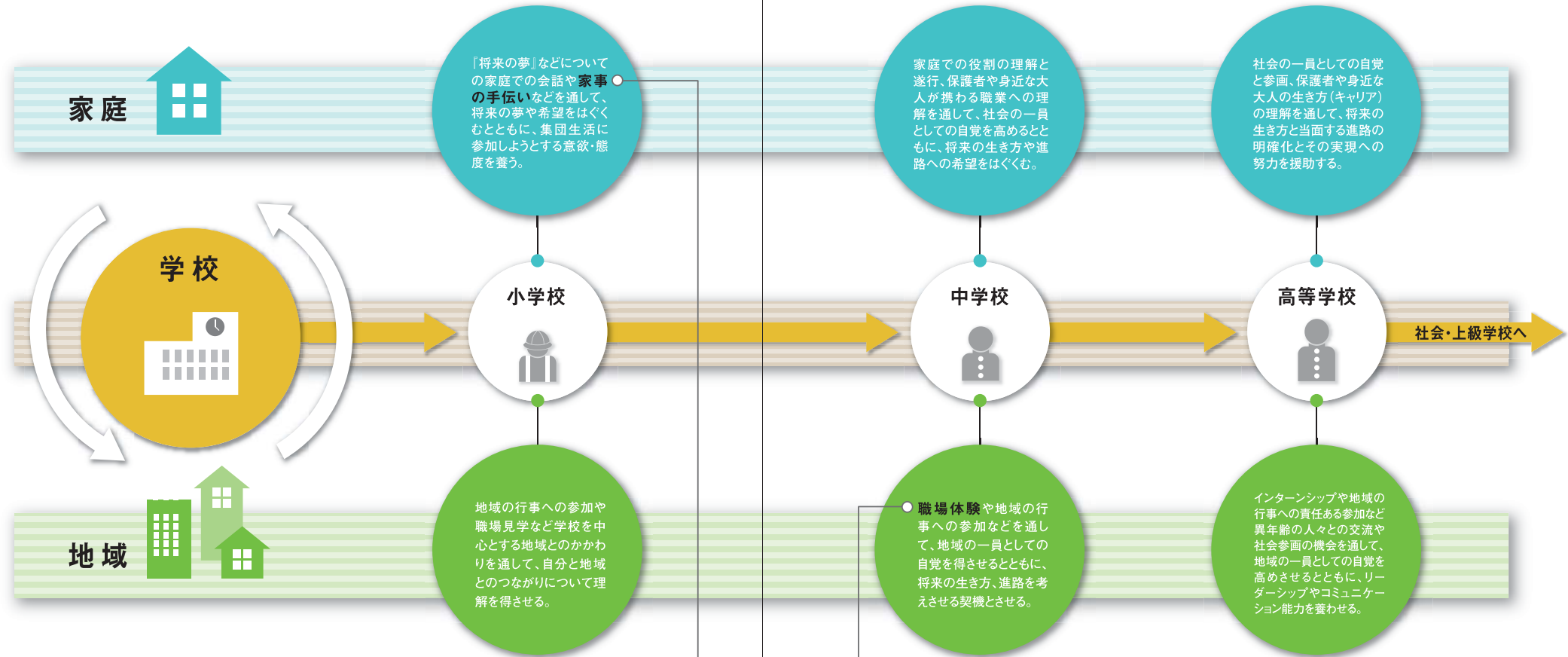
「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

「課題対応能力」は、仕事を上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

※ 図中の破線は両者の関係性が相対的に見て弱いことを示している。

# キャリア教育における家庭・地域の役割



キャリア教育は、一人一人の生き方にかかわる教育であり、児童生徒が様々な体験をし、多くの人と触れ合うことを通じて、生き方について考えるようにすることが大切です。そのため、学校がキャリア教育を進めるにあたっては、児童生徒がそのような機会・場を得られるよう、家庭や地域の理解を得て、連携・協力を図ることが不可欠です。

Column-02

## 就学前からのキャリア教育

- 子どもの触れ合いや家庭での様々な体験を大切に、人や物事に積極的にかかわろうとする意欲・態度を養う。
- 隣近所や地域の人々との触れ合いや交流などを通して、人や物事とかかわることの楽しさや喜びを味わわせる。

Column-03

## 事業所等との連携

地域で体験活動を円滑に実施するためには、学校が事業所等との積極的な連携を図り、地域の教育資源を有効に活用することが必要です。

市町村の教育委員会は、体験活動を実施するためのより具体的な協議や情報交換、体験先の開拓を行う場などの効果的なシステムづくりに積極的に取り組むことが求められます。このようなシステムづくりのためには、教育委員会は中心的な役割を果たし、都道府県の教育委員会と緊密な連携の下、学校に指導・助言を行い、コーディネーターとしての役割を積極的に果たす必要があります。



小学校・中学校・高等学校においては、児童生徒がそれぞれの発達段階におけるキャリア発達上の課題を達成することができるよう、学校の教育活動全体を通じて、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力・態度の育成に計画的、組織的に取り組むことが期待されています。各学校のキャリア教育の現状と課題の把握に努め、積極的に校種間の連携に取り組む必要があります。

## キャリア教育の現状と課題

### 現状 各学校の現状はどうなっているのか？

#### 小学校

- キャリア教育の意義や必要性あるいは指導内容・方法の理解について教職員間に差があるなど、教職員のキャリア教育に関する理解が必ずしも十分ではない。
- 指導内容・方法が未開発で、夢や希望の育成といった指導に偏っている。
- 学年や学校全体で取り組む組織・体制が未整備で、学級担任個々の取り組みになっている。

#### 中学校

- キャリア教育と進路指導との関連が図られておらず、本来の理念に反して出口指導に偏る傾向がある。
- 多くの学校が職場体験に取り組んでいるが、その事前・事後の指導が不十分であり、体験活動に終始する傾向がある。
- 学年ごとの優れた活動や指導方法等が学校全体の取り組みとして、継承、改善されていない。

#### 高等学校

- キャリア教育の意義や必要性の理解が不十分で、従前からの進学指導や就職指導に終始する学校が少なくない。
- キャリア教育の全体計画や各学年の年間指導計画などが立てられていない。
- ホームルーム活動等における指導内容・方法の開発が十分に行われていない。



### 改善 改善すべきことは何か？

#### 小学校

- キャリア教育を通して身に付けさせたい能力や態度を確認し、共通理解を図る。
- 学級だけでなく、学年単位や学校の教育活動全体を見直し、計画を立てて取り組む。
- キャリア教育の担当者を決め、推進体制を作り、取り組む。

#### 中学校

- 将来の生き方を視野に、キャリア教育の視点から進路指導の在り方を見直す。
- 職場体験等の体験活動を重視しながら、各教科等との関連を図った系統的な取り組みを計画し推進する。
- 学校全体で推進できる組織・体制を作り、3年間を見通した体系的な取り組みを進める。

#### 高等学校

- キャリア教育の視点から、ホームルーム活動やこれまでの進学指導、就職指導の在り方を見直す。
- 体系的な指導計画を立て、組織的・計画的なキャリア教育に取り組む。
- 進路指導部(キャリア教育担当分掌)を中心に学年や担任等との連携を深め、関係機関との連携を図った指導体制を構築する。

### 取組 校種間の連携が重要です。

中央教育審議会では、「4領域8能力」をめぐるこれらの問題を克服するため、就職の際に重視される能力や、その後に提唱された類似性の高い各種の能力論(内閣府「人間力」、経済産業省「社会人基礎力」、厚生労働省「就職基礎能力」など)とともに、改めて分析を加え、「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的に自

立するために必要な基盤となる能力」として再構成して提示することとしました。

その結果得られたのが「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つから成る「基礎的・汎用的能力」です。

### 学年間・学校種間の連携



キャリア教育では、小・中・高等学校の12年間にわたる継続的・発展的な取り組みが期待されています。例えば、小学校の職場見学、中学校での5日間の職場体験、高等学校の就業体験(インターンシップ)は、児童生徒のキャリア発達を促す大きな成果が期待できる教育活動です。しかし、学校種間の連携がないまま系統性、発展性を欠いた取り組みとして実施されれば、それらは、児童生徒にとっては新鮮さに欠け、かつ目的意識の低い活動、受入事業所等にとっては負担感が募る活動となってしまいます。

そこで、キャリア教育の推進にあたっては、学校種間で相互の取り組みの理解を深める機会・場の設定、児童生徒の学習・活動の記録等を引き継ぐ校種間の連携システムを作ることが必要です。小学校から中学校へ、また中学校から高等学校へと、児童生徒一人一人のキャリア形成に関する学習・活動内容やその成果等に関する記録を作成し、それを引き継いで指導に生かすといった工夫が考えられます。

#### 【具体的な手立て】

- 異なる学校種の教職員が集まる研究会等を活用し、相互の情報交換、キャリア発達認識の共有、指導内容の系統的、発展的な接続を図る。
- 上級学校への入学前に、学校間連絡会等で、個々の児童生徒のキャリア発達に関する引き継ぎを行う。
- 中学校区ごとの、小学校・中学校キャリア教育担当者連絡会等を定期的に開催する。
- 中学校の職場体験発表会等へ学区内小学校高学年児童が参加する。
- ポートフォリオの継続的活用を図る。

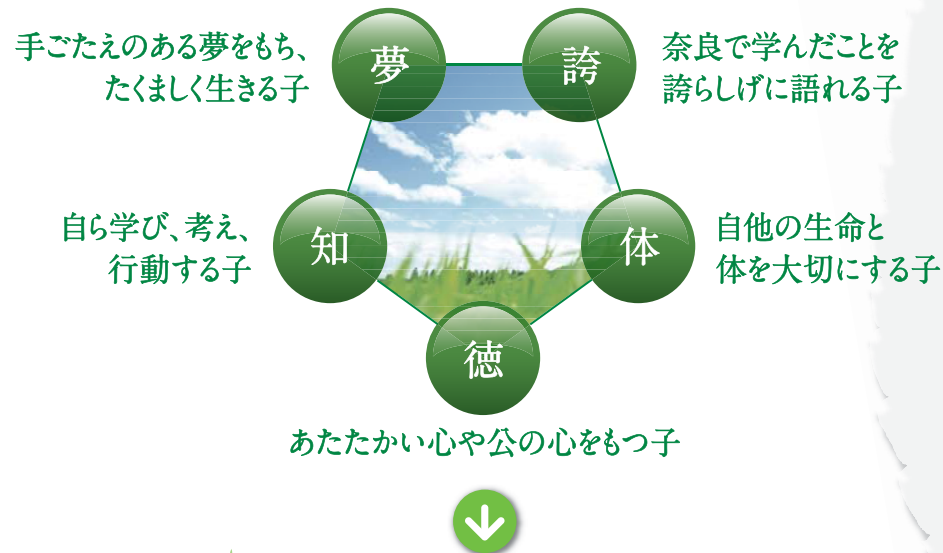
奈良市教育  
ビジョン

奈良市教育ビジョンでは、縦のつながりと横のつながりをキーワードとしています

Next

- 幼・小・中・高の発達と学びの連続性を大切にしています。
- 学校と家庭・地域との連携を大切にしています。

# 奈良市教育ビジョン



## 奈良で学ぶ

古都奈良の人々が、奈良の文化財をはじめ多くの素晴らしいものを守り伝え、大事にしてきた心を学び、未来につなげます。

- 素直に感じることができる幼児期から小学校低学年の時期に、豊かな体験を通して、奈良のよさと出会う中で、「びっくりした」「すごい」という原体験をもつことが大切です。
- 小学校中学年から中学生の時期には、体験活動とともに感じたことを「なぜ」「どうして」と疑問をもって調べ、学習を深めることを通して本物に近づくことで、地域や奈良に対する誇りを育てます。

## 奈良を誇る

奈良の子どもに、もたせたい「誇り」とは

- 奈良にある素晴らしい文化財や伝統に対する誇り
- 千年単位で文化財や伝統を守り、つくり上げてきた奈良の人々の営みに対する誇り
- 本物にふれて学ぶことができた自分に対する誇り

## 奈良を語る

奈良を誇りに思い、奈良のよさを語り、伝えることができるコミュニケーション能力や表現力の向上に努めます。

## 5つの基本目標をもとに教育ビジョンを策定

### 基本目標1 奈良らしい教育の推進

「古都奈良の文化財」をはじめ、奈良には千年単位で受け継がれてきた伝統文化があります。奈良の素晴らしさを伝承するとともに、国内外に発信し、互いに理解し合い、高め合うことのできる人材育成をめざす「奈良らしい教育」を推進していきます。

また、その基礎となる豊かな心と確かな学力を備えた子どもを育成するためには、幼児期・小学校低学年の時期におけるきめ細かな教育の保障と、幼小・小中の滑らかな接続を意識した幼児期からの連続した学びの保障が必要です。

- 世界遺産学習の充実  
～奈良から未来につなげる教育の推進～
- 小学校ハローイングリッシュ事業の充実  
～奈良から世界に発信する教育の推進～
- 「30人学級」の充実  
～学びの基礎を確実にする教育の推進～
- 幼小連携・小中一貫教育の推進  
～発達と学びの連続性を踏まえた教育の推進～



### 基本目標2 豊かな心とたくましい体をはぐくむ教育の推進

- 道徳教育の充実
- 生徒指導や心のケアなどの支援体制の充実
- 幼稚園・小学校・中学校・高等学校間の連携の推進
- 学校・家庭・地域が連携した読書活動の推進
- 体力の向上と健康教育の推進

### 基本目標3 確かな学力をはぐくむ教育の推進

- 学習指導の充実
- 確かな学力をはぐくむための研究の充実
- 大学との連携の推進
- 幼児教育の充実
- 幼小連携・小中一貫教育の推進
- 特別支援教育の推進
- 情報教育の推進

### 基本目標4 信頼される学校づくりの推進

- 学校評議員制度の充実
- 学校評価の充実
- 教職員の資質・能力向上の推進
- 学校規模適正化の推進
- 安全・安心な学校施設の充実
- 子育て支援の充実

### 基本目標5 地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくりの推進

- 地域との連携・協力の推進
- 安全・安心な環境づくりの推進
- 地域ネットワークの拡大とコーディネーター研修の推進
- スクールサポート事業の充実



# コーディネーター活動の コツをつかもう!

## コーディネーターの業務を理解しよう

キャリア教育コーディネーターには、3つの機能・役割が求められていることがわかります。

1

キャリア教育に必要な  
地域資源の発掘と  
ネットワーク構築・維持

キャリア教育を推進していくために必要な地域資源を発掘し、持続的に協力してくれるためのネットワークを構築し、維持していく機能。

2

学校や地域・企業等の  
ニーズを踏まえた  
キャリア教育に関する  
プログラムの開発支援

学校のニーズや、地域・協力する企業等のニーズを踏まえた、バランスのとれたキャリア教育のプログラムを開発支援する機能。

3

プロジェクト運営管理、  
連絡・調整

キャリア教育プログラムの実行をひとつのプロジェクトと考え、プロジェクトをスムーズに実行するための運営管理、連絡・調整業務を行う機能。

## 学校の活動に参加しよう

社会の変化にともなって、学校に対する要望が多様化し、家庭や社会で担うべき仕事や学校にまかされ教職員がますます忙しくなっています。地域の学校は「わたしたちの学校」という認識をもって、みんなで学校を支援しましょう。

### 学校の要望をはっきりさせましょう

- 学校の施設設備を地域に開放するだけでなく、学校運営・教育活動を開かれたものにする考え方が浸透してきています。教育活動をより充実させるには、地域の協力が不可欠です。
- コーディネーターが自らすすんで、学校が地域に望むことを明確にし、共通理解を図り、その上で地域との緊密な連携を進る手助けをしましょう。

### 学校の仕事を協働する姿勢で臨みましょう

- 地域には様々な知識・技能をもった方々がおられます。地域の人材は学校教育を進める上で、重要な資源です。
- 子どもたちに様々な体験を積ませることは大きな教育効果を生みます。体験活動を充実させるためにも、地域の方々との協働を図りましょう。

### 校外学習活動を積極的に支援しましょう

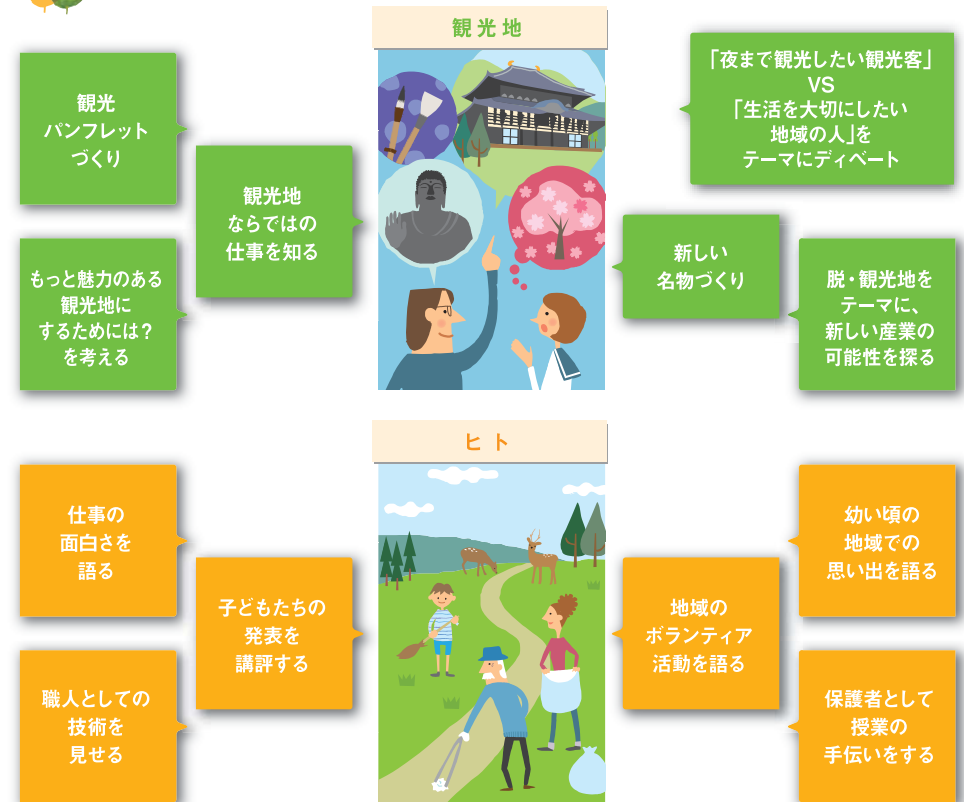
- 学校は、生活科、総合的な学習の時間等を活用し、職場体験活動をはじめ、子どもたちにはより豊かな体験活動を積んでほしいと願っています。
- 地域の協力を得て、積極的に校外での体験活動を展開しましょう。

### 学校の情報を発信しましょう

- 地域の協力を得るには、積極的に情報発信する姿勢が大切です。
- 学校が困っていることを地域の方々を知っていただくことも大切な情報発信です。情報の共有が連携の第一歩です。先生が努力奮闘する姿を知っていただくことも必要ではないでしょうか。



## 地域の資源を教材化し、プログラムを作ろう



Column:04

### 地域の資源「ヒト・モノ・コト」を理解し、 さまざまな角度から「教育資源化」しましょう。

地域の歴史や産業、抱える課題などは、子どもたちが自分の身におきかえて考えることができ、日常的な視点から取り組むことができます。

「地域のモノ」なら、そのまま題材にすることが可能です。地域の特産品を地元の人と手づくりしたり、販売体験することは、子どもたちにとって郷土の味をより身近に感じる体験になります。

また、同じモノでも光の当て方を変えることで、教育資源として活用していくことが可能です。観光地として成り立っている奈良であれば、「観光パンフレットをつくる」というテーマで活動できます。「特産品を使って新しい名物をつくろう」というテーマで取

り組んだ事例もあります。価値観の多様性に気づかせるなら「観光客、地域に住む人、土産物屋。意見がぶつかりがちな三者の希望をどう叶えるか」というテーマで話し合わせるのも良いでしょう。

「地域のヒト」には、仕事の面白みや苦労、幼い頃に体験した地域の思い出を語ってもらうのか、あるいは技術を見せてもらうのかによって、その方から学べることは大きく異なります。

キャリア教育では、「どんなチカラを育てたいのか」などの目標によって、身近な「ヒト・モノ・コト」を題材に組み立ててみてはいかがでしょうか。



文部科学省との実証的共同研究を実施しました。

## 【コーディネーター人材育成プログラムと中学校区における地域資源を活用した「学区ブランド産品」開発プログラムの相乗効果による地域教育力・課題解決力の強化についての共同研究】

奈良市では平成22年7月から翌年3月まで、地域コーディネーターを中心にさまざまな人が参画するキャリア教育のプロジェクトを実施し、奈良市内にある三つの中学校区で実験的に行ないました。

学区ブランド産品  
開発プログラム



コーディネーター  
人材育成プログラム



コーディネーター人材育成プログラムと中学校区における地域資源を活用した「学区ブランド産品」開発プログラムの相乗効果による地域教育力・課題解決力の強化についての共同研究

地域の農業、農産物をテーマとした「学区ブランド産品」づくりという学習プログラムを開発し、中学校給食における地産地消のあり方についての学習を通して、実際にブランド産品を開発。販売および物産展での展示等PRを行いました。また、この取り組みを支援するコーディネーター人材を育成・輩出するための研修プログラムを開発しました。

### 「学区ブランド産品」とは

- 既存の農作物に学区名を付け、キャラクターやパッケージ、PR方法などブランドイメージを構築したもの。
- 農作物を使った新しい加工食品や料理法、メニュー。



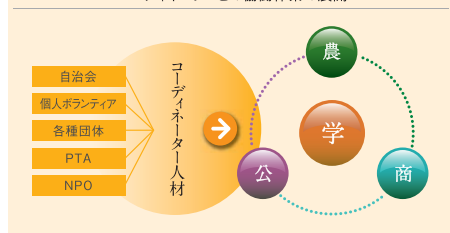
#### 「学区ブランド産品」の展開イメージ

- 企業（工場等）の食堂などで採用される。
- 商店街の飲食店等に地元農産物が使用される。
- 観光客向けの新しいメニューやおみやげ品が発売される。
- 農産物の供給や販路開拓などの面で学区間交流が進む。

### 関連部署における協力内容

- コーディネーターとの協働作業による学校における出前授業の企画、実施。
- 農工商事業者への波及効果を狙った協力要請とフォロー。
- プロジェクトの期間中に実施する研修、説明会等への参加。

#### コーディネーターとの協働作業の展開



Column:05

### 「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究とは

都市化、核家族化、少子化による地域の教育力の低下など、地域社会の抱える課題や、地球温暖化など国を挙げて緊急に取り組むべき課題に対し、地域社会それぞれの実情に合わせて住民が協働して解決していくことを促す「仕組みづくり」を進める必要があります。

文部科学省では、社会教育による地域課題の解決に際し、

効果的連携による相乗効果や、新たな実施手法の開発が期待されるテーマ、取り組み手法等を具体的に提示した国と地域による実証的共同研究を行い、取り組み後、様々な地域で活用され、地域の教育力の向上に資する取り組みモデルを構築することを目的として、「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究を実施しています。

### 3つのモデルプログラム

#### 「月ヶ瀬中学校区の取り組み」 月ヶ瀬サイエンス



地域ブランドの開発に取り組んだ月ヶ瀬中学校。使用したのは、「月ヶ瀬梅渓」の原点であり、紅花染めに欠かせない「烏梅（うばい）」。

#### 「都南中学校区の取り組み」 カレー都南プロデュース



都南中学校では、カレーの本場・スリランカのシェフの教えを受け、地元の野菜と果物を使った特製スリランカ風「カレー都南（となん）」に挑戦しました。

#### 「富雄中学校区（鳥見小学校）の取り組み」 古代米プロジェクト



鳥見小学校の5年生は、まず世界遺産に登録された各史跡を見学し、奈良に都が作られた当時の人々の暮らしに注目。実際に調べ、育てたオリジナル古代米を「うり米（うまいまい）」と名付け、さらに誕生までのCMも制作しました。

Pick UP



### 平成23年3月5日に 共同イベント「子ども調査隊出動!」を開催しました。

奈良もちいどセンター街「OK広場」にて、3つの中学校区とそれぞれの地域が関わり、小中学生が調査・研究・開発した成果の発表が行われました。今回参加したのは3つの中学校区。富雄中学校区は、古代米の試食とアンケート調査を実施し、オリジナルCMにより古代米のPR活動を行いました。月ヶ瀬中学校区は、烏梅（うばい）を使った紅花染めを実演・販売。紅色に染まる化学変化について説明しました。都南中学校区は、都南特製カレーの煮込みとナンを手作りしました。1食100円で販売したところ300食近くを完売しました。また、全校区の子供生徒が商店街を中心として、チラシの配布活動を実施しました。





キャリア教育についてもっと知りたい場合には、  
以下のページにアクセスし、情報・資料等を参照してください。

- 文部科学省「進路指導・キャリア教育について」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm)
- 厚生労働省「若年者雇用対策」  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/jakunensha.html>
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター  
[http://www.nier.go.jp/04\\_kenkyu\\_annai/div09-shido.html](http://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/div09-shido.html)
- 厚生労働省「若者の人間力を高めるための国民運動」  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/wakachalle/index.html>
- 内閣府「青少年育成」  
<http://www8.cao.go.jp/youth/index.html>
- キャリア教育 総合情報サイト  
<http://www.human-edu.jp/>
- 経済産業省「キャリア教育」  
<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/index.html>

重要答申・文部科学省及び国立教育政策研究所作成の手引き・支援資料等

- 中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo10/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo10/index.htm)  
平成20年12月24日の文部科学大臣からの諮問「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」を受けて設置されました。  
平成23年1月にとりまとめられた「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」も掲載されています。

- 『「キャリア教育」資料集 研究・報告・手引編』〔平成21年度増補版〕－国立教育政策研究所－  
<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/21career.shiryou/21career.shiryou.htm>

小学校におけるキャリア教育推進のために「自分に気付き、未来を築くキャリア教育」(パンフレット)－国立教育政策研究所－  
[http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/syoukyari/shougakkou\\_panfu.htm](http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/syoukyari/shougakkou_panfu.htm)

中学校におけるキャリア教育推進のために「自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育」(パンフレット)－国立教育政策研究所－  
<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/21chuugaku.career/chuugakkou.panfu.htm>

高等学校におけるキャリア教育推進のために「自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育」(パンフレット)－国立教育政策研究所－  
<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/21%20koukou.career/koukou.panfu.htm>

- 『小学校キャリア教育の手引き』－文部科学省－  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/1293933.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1293933.htm)
- 『中学校キャリア教育の手引き』－文部科学省－(平成23年3月公表予定)

平成22年度「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」関係者一覧

【奈良市地域教育力強化推進委員会委員】

会長 片岡隆弘	奈良市市民活動部長	委員 山本二郎	奈良市観光経済部部長
監査 森井 弘	奈良市学校教育部長	高木好清	奈良市市民活動部次長
		石川 陽	財団法人 京都高度技術研究所 新事業創出支援部コーディネーター

【奈良市地域教育力強化プロジェクト実行委員会委員】

● 委員	委員 魚谷和良	奈良市中心市街地活性化研究会理事	
委員長 岡田龍樹	粕谷正文	鳥見小学校校長	
委員 河崎智恵	大澤 清	都南中学校校長	
石川 陽	上西千秋	月ヶ瀬中学校校長	
	高木好清	市民活動部次長	
	石原 勉	学校教育部学校教育課課長	
森本悦司	植田 敏	観光経済部(商工労政課)参事(課長)	
谷口敏彦	廣岡三郎	観光経済部農林課課長	
	山本 明	市民活動部生涯学習課課長	
● ワーキンググループ員			
委員 富雄中学校区	奥村麻希子 都築由美 新谷明美	委員 都南中学校区	虎杖徳明 安田美紗子
	太田淳子 加藤国子 上城戸栄子	月ヶ瀬中学校区	徳家 眞 窪田良威
	中島節子 山上洋子 福井幸子	三条通ショッピングモール	副理事長 福田育弘

出典

『キャリア教育の更なる充実のために ～期待される教育委員会の役割～』

文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導研究センター(平成23年2月発行)

『奈良市教育ビジョン ～確かな学力と規律あるたくましい子どもをたくむために(概要版)～』

奈良市教育委員会(平成21年5月)

『学校支援地域本部事業のまとめと提言 ～学校とともに、地域の力で子どもを育む～』

奈良県学校支援地域本部事業運営協議会(平成22年10月)

『キャリア教育ガイドブック 実践編』 経済産業省(平成20年3月)

【特別付録】

コーディネーターに必要なフォーマット集

- 授業プログラムシート(指導案)
- プログラムチェックシート
- 活動内容を考えるワークシート
- 学校ニーズ把握シート
- 地域人材向け依頼書フォーマット

とっても便利!  
使いこなしてね



奈良市地域教育力強化推進委員会